

秋田県文化振興顕彰事業

『真崎勇助展』

郷土研究に生涯をかけた真崎勇助
古文書、古記録、土器、石器
コレクションを一挙公開

真崎勇助翁



栗盛教育団の創始者
栗盛吉右衛門翁

真崎勇助は天保十二年(一八四一)、今の秋田市中通りに生まれました。十二歳で秋田藩主佐竹義睦に仕え、明治二年の藩制改革時には、二十九歳の若さで藩知事佐竹義堯家最初の家従に抜てきされました。大変な勉強家であった勇助の、知識と教養が認められたものでしょう。

勇助は大正六年、七十七歳で亡くなりましたが、その生涯を通して力を注いだのが、土・石器類の収集と古文書の収集・編集でした。十八歳ごろに思い立って以来、収集と研究は続けられ、いつしか勇助は郷土研究については第一級の人物になっていました。しかし、そうした中で困ったことも持ち上がります。

それは収集した多くの書籍や古文書、土・石器類等の保存をどうするかということ。勇助自身も生前から苦心し、篤志家へ助

力を求めましたが、筆書きの古い本や土中から掘り出された古器物では、当時の人、特に協力を期待した富豪たちに理解を得ることはできませんでした。

そのコレクションが大館へ引き継がれたのは、大正十二年秋、勇助七回忌の法要の後のことでした。土・石器類約六千数百点、書籍、古文書類約三千点を、栗盛吉右衛門が譲り受け、財団法人栗盛教育団へ寄贈、保存されることになったのです。栗盛教育団は市立栗盛図書館の前身で、その図書館が現在の市立中央図書館となったのは皆さんご承知のとおりです。

勇助のコレクション、つまり「真崎文庫」の中には、菅江真澄が書きあらわした四十六冊(県指定文化財)をはじめ、秋田の近世史のカギを解く各種の絵図面や記録(この中には勇助自身の

とき 10/21(水) 10/25(日) 9時~19時
会場 中央公民館(展示室)
主催 秋田県・大館市教育委員会
問い合わせ 市教委生涯学習課
☎49-3111(内線255)

著述である「酔月堂叢書」五十冊(「酔月堂は勇助の号」)、「雲根録」二十二冊、「秋田の落葉」五十五冊、「布天麻柯勢」二十六冊などの貴重書がある、先賢の書簡・遺墨などがあります。

「真崎文庫」は、秋田の歴史をひととき、当時を知る資料としては、湯沢市立図書館蔵「南家日記」と双璧をなし、また県立図書館蔵・安藤和風の「時雨庵文庫」、東山多三郎の「東山文庫」とともに県内三大文庫の一つに数えられる貴重な文化財です。

勇助が収集した縄文晩期の中空土偶頭部



「雲根録」(上の方)ほかの勇助自筆書



菅江真澄著作集(県指定文化財)と文庫箱

